

内閣総理大臣賞受賞

女性 = 「おかみさん」パワーによる元気なむらづくり

とおわそん いち
受賞者 **十和村おかみさん市**
(高知県幡多郡十和村 H18.3~高岡郡四万十町十和)

地域の沿革と概要

1. 立地条件

十和村(平成18年3月から大正町、窪川町と合併して四万十町)は、高知県西北部の四万十川中流域に位置し、大正町・四万十市の県内2市町と愛媛県鬼北町に接している。

県都高知市までは約110km、経済的にも文化的にも関係の深い愛媛県宇和島市まで約60kmに位置し、総面積164.66km²で、林野率90%の純山村である。

気象条件は、平均気温18.0で四季の変化に伴って寒暖の差があるものの比較的温暖な気候であり、年間降水量は、約2,800mmで、平均最高気温は8月で33.3、平均最低気温は2月で2.7と、夏季は高温であるが、冬季は数回の積雪を見ることもある。

平成17年4月1日現在の人口(住民基本台帳)は、3,550人で、ピーク時(昭和30年:7,634人)の47%となっており、高齢化率も34.4%と、少子化や労働力人口の流出に起因する過疎化、高齢化が進行している。

2. 社会、経済的条件

古くから農業と林業の複合経営が行われ、椎茸・木炭等の林産物をはじめ、茶、柚子、栗、薬草、水稻、露地野菜などの農産物の生産や加工に力が注がれてきた。

特に、農業分野においては、「おかみさん市」を核として高知市への産地直送販売や、環境ISO14001認証取得による環境保全型農業が展開されている。

むらづくりの概要

1. むらづくりの基本的特徴

第1図 位置図



高知県幡多郡十和村
(H18.3~高岡郡四万十町十和)
十和村おかみさん市

白地区 KenMap の地図画像を編集

(1) むらづくりの動機、背景

ア 集落活動の萌芽 - 女性加工グループの組織化 -

十和村のむらづくりは、昭和40年代後半から集落単位で設立された女性加工グループの活動がそのスタートである。都市との経済格差の拡大や過疎化・高齢化が進展する中、「原材料だけの生産に止まっている、地域の経済発展は望めない」という危機感が地域住民の間に高まってきた。

そこで、味噌づくりや漬物等を中心とした女性加工グループが集落単位に設立され、地元産物を利用した農産加工品の製造・販売活動が始まり、集落内には加工グループだけでなく直売所を独自に設けるなどの産直活動に取り組む女性たちのグループも続々と組織され、活発な活動が集落毎に始まった。

イ 集落から村域連携へ - 自立への取組 -

こうした取組の拡大の中で、「自分たちが集落を守るため主体的に活動するには“経済的な自立が必要”」との意識が女性たちの中で一層強くなってきた。

一方、少子高齢化や過疎化は容赦なく進み、集落のお祭りや伝統行事、自治会活動における女性たちの役割や仕事は増大した。また、加工品や直売所での販売額の伸び悩みといった、集落単位の活動にも限界が生じてきた。そこで、女性たちはそれぞれのグループの連携を図り、加工技術の向上、新商品の開発、販路の拡大等に一緒になって取り組もうと「ふるさと産品協議会」を平成9年に設立し、村域レベルでの活動を開始した。

これにより、村内の農林産物と加工品（栗羊羹、椎茸の佃煮、轟味噌等）を詰め合わせた「十和ふるさと便」（ゆうパック）の取組などが生まれた。集落だけでは成し得なかったことが、お互いが連携すれば可能となることを女性たちは改めて実感した。

そして平成10年、女性たちは、「十和村いちかばちか実行委員会」を結成し、女性たち自らの企画で、農村女性の「自立」を目的とした「幡多郡地区の女性サミット」を開催した。

非農家も含めた女性たちのネットワークでは、行政に対するアプローチも積極的になり、まさしく女性主役のむらづくりが次々と実行され、それまで女性に対して遠慮気味だった行政機関や男性たちの間にも、村の活性化には「女性のパワーが不可欠」との意識も生まれた。

さらに、集落を越えた村域レベルでの活動の中で、「農業だけでなく農村での女性の在り方、自分たちの暮らし」についても話合われるようになり、婦人会や村内の全ての女性活動

第1表 地区の概要

| 事 項 | 内 容 | |
|--------|-----------------|--------|
| 地区の規模 | 新市町村単位の集団(19集落) | |
| 地区の性格 | 機能的な集団 | |
| 農 家 率 | 53.7% | |
| | (内訳) | |
| | 総世帯数 | 1,313戸 |
| | 農 家 数 | 705戸 |
| 販売農家数 | 471戸 | |
| | (内訳) | |
| | 専業農家 | 106戸 |
| | 兼農家 | 63戸 |
| | 兼農家 | 302戸 |
| 主要作物 | ししとう | 109百万円 |
| 農業産出額 | なばな | 67百万円 |
| | お茶 | 55百万円 |
| 農用地の状況 | 耕地計 | 316ha |
| | (内訳) | |
| | 田 | 174ha |
| | 畑 | 56ha |
| | 樹園地 | 86ha |
| | 牧草地 | 4ha |
| | 耕地率 | 19% |
| | 農家一戸当たり農用地面積 | 67a |

グループの連携を図り交流を促す目的で平成 11 年「十和村女性ネットワーク」が発足した。

ウ 外部への新たな展開 - 「おでかけ台所」と「おもてなしツアー」の開始 -

平成 11 年、女性ネットワークに対して、高知市内の帯屋町商店街のおかみさんたちから、商店街の活性化を図るために、「日曜市に野菜を出してもらえないか」との依頼があった。「野菜を出すだけなら」ということで、数グループが対応することになり、平成 12 年は毎月日曜市に野菜が運ばれた。

そのうち「どんなものか見に行こうか」となり、いつしか、日曜市に参加し自分たちで販売するようになった。回を重ねるうちに消費者のニーズや嗜好について、参加した女性たちは口々に「次は、こうして売らんといかんがよ」とか、「あれが、売れるんじゃないやろか」といった会話が生まれ、「定期的にもっと沢山販売できたらええね」という声が多数聞かれるようになった。

この体験を通じて「打って出る」という発想や「親父の財布を頼らず自分たちで稼ごう」といった“経済的な自立”を実現する具体的な活動のイメージが女性たちの間に育っていった。そして、平成 13 年に、ふるさと産品協議会のメンバーや J A の女性部と高知はた農協、十和村、(株)四万十ドラマを構成員とする「十和村地産地消(産直活動)運営協議会」が設立された。この協議会は、平成 15 年から、より親しみやすいネーミングとして「おかみさん市」の愛称を使用し、現在に至っている。

協議会の設立にあたっては、これまで、村域連携により拡大してきた自分たちの取組を楽しいもの、長続き出来るものにしたい。安定的に収入を得るようにしたい。高知市内の商店街での直販の経験を活かしたい。自分たちの住む十和村をもっと元気にしたい。といった考えを基本に、女性たちが主体となって多くの議論が重ねられた。また、そうした女性たちの活動に対して、行政や農協はどんな支援が出来るのかという検討も重ねられた。

その結果、おかみさん市(おでかけ台所) = 高知市内のスーパーでの販売、十和の台所 = 地元の直売施設での販売、学校給食 = 学校給食での地元食材提供、という 3 つを柱に活動がスタートした。

特に、おかみさん市(おでかけ台所)の活動は、野菜の販売だけでなく「十和のこころ」を届ける活動として定着し、対面販売を通じて都市住民との間に「こころと心の交流」が育まれた。この交流を通して、「都市住民を十和村に招いて、おもてなしをしてあげたい」という気運が高まり、これが、「自分たちに何が出来るのか、十和村には何があるのか」と地域を見直すきっかけとなった。そして、「四季折々の手作りの食事でもてなそう」との意見から、地域住民を交えた試食会が重ね



写真 1 「おでかけ台所」の販売風景

られ、平成 16 年の秋に「おもてなしメニュー」が完成し、都市の消費者を招いた「十和であいましょう」が開催され、「食」を核とした都市住民との交流がスタートした。

「十和であいましょう」は、平成 17 年からは、「おもてなしツアー」として引き継がれ、地域のお年寄りや子供たちも参画して、農作業体験や四万十川の清流など十和村の豊かな自然を活かした交流が展開されている。

(2) むらづくりの推進体制

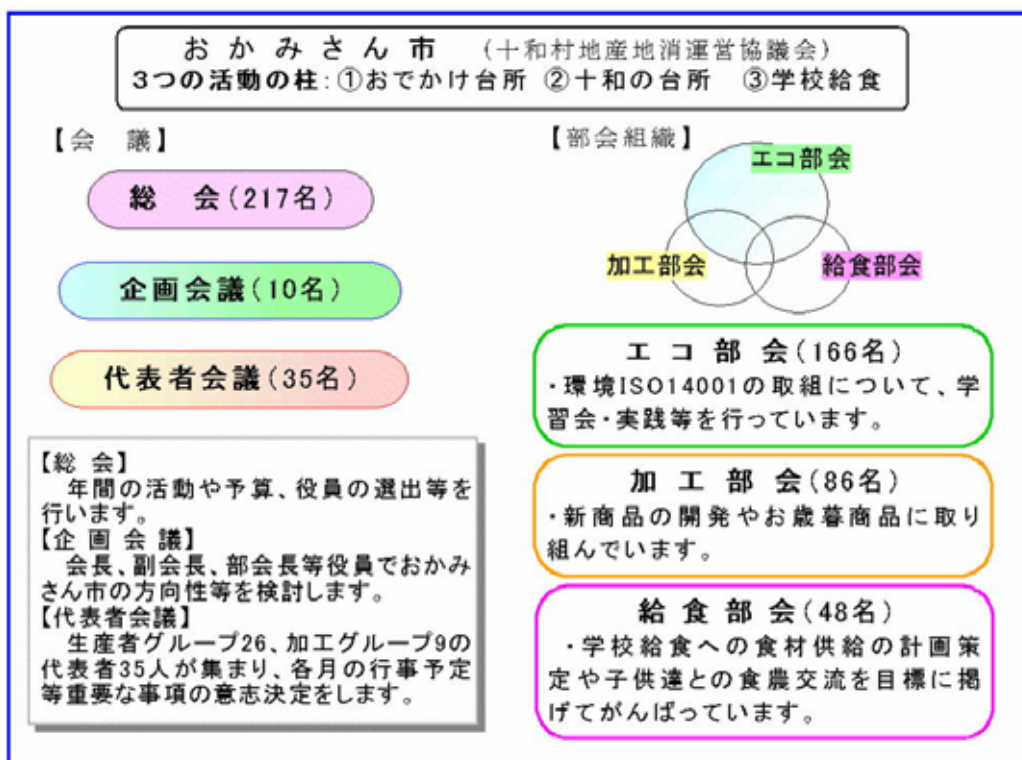
おかみさん市は、集落単位を基本に組織された 26 の生産グループと 9 つの加工グループ（合計 217 人）及び関係機関等で構成されており、会員の殆どが女性である。会長、副会長等の役員の任期は 2 年で、毎年 5 月に開催される総会で選出される。

村内 19 集落のうち、17 集落に会員が存在しており、まさに十和村をまるごとカバーする組織といえる。

おかみさん市は、年に 1 回の「総会」の他、毎月「企画会議」と「代表者会議」を開催し、取組方針等を確認しながら運営されている。

また、「エコ部会」、「加工部会」、「給食部会」、といった専門部会を組織し、環境保全型農業の推進や新商品の開発、学校給食を通じた子供たちとの食農交流などを積極的に実施している。

第 2 図 おかみさん市の推進体制



むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

(1) 女性ならではの心遣いやパワーが遺憾なく発揮されたむらづくり

十和村におけるむらづくりの特徴を端的に言うと、新しいことに積極的に挑戦する元気・行動力と粘り強さ、きめ細やかな心遣いと心配り、このような「はちきん」と言われる高知の女性の持つ気質や力が「おかみさん市」に結集され、大きなパワーに増幅されたということである。

そして、一人のリーダーに頼るのではなく、みんなが主役になって、暖かい真心を込めた活動により人の輪（和）を創り、十和村を一つにまとめ、さらには、都市住民をも取り込んだ大きな環につながっている。様々な活動に取り組むおかみさんたちのハツラツとした笑顔がこのむらづくりの成果を象徴している。

おかみさん市のメンバーは、殆どが農家のおかみさんたちで、平均年齢は約 62 歳と決して若いとは言い難いが、おでかけ台所やおもてなしツアーを毎回楽しんでいる。活動を通じて、「自分が村の活性化に役立っている。消費者を喜ばせている。四万十川の自然を守っている。」といった自信や誇りを誰もが持っている。

おでかけ台所＝「打って出る」という発想やそれを実行に移す決断、そして継続する力。どれをとってももの凄いパワーが必要となるが、おかみさんたちは持ち前の行動力とそれまで集落活動で培ってきた団結力で、それらを克服してきた。失敗した時のリスクを先に考えてしまう男性だけではこの活動は生まれなかったかも知れない。

おかみさん市の活動が活発になるにつれて、それまで女性たちのパワーに圧倒され気味だった男性たちもともにイベントに参加したり、販売活動を積極的に支援するようになった。そして、かつて「日本一の生産」を誇った「しいたけ」栽培の復興に向けて、栽培技術向上のための新たな取組が始まっている。

(2) 「食」を核とした都市住民（消費者）との交流が村を一層元気に

おでかけ台所を通じて築かれた消費者との信頼関係を一層深かめようと、「十和のおもてなしツアー」が開催されているが、このツアーの目玉である「おもてなしメニュー」も女性の視点から導びかれたものである。

おかみさんたちの最も得意とする「食」に目をつけ、郷土料理の復活と伝承、地域食材や資源の効果的な活用、さらに、お年寄りや子供たちも含め地域の住民みんなが参画し、一緒に交流を楽しんでいる。

『十和から打って出た活動を、十和に元気を呼び込む活動』に進化させ、まさに村民全員が共有できる新たな財産や文化を創造している。



写真2 メニューは全部で121品

都市住民をもてなすため、十和のもつ様々な地域資源や自分たちの暮らしを見つめ直す中で、「食」の大切さや可能性に着目した。

「こころと心の交流」はおかみさんたちだけのものでなく村民みんなが共有できるようになっている。例えば「農林業体験」で講師をつとめるのは地区のお年寄りであったり、子供たちも交流活動に積極的に取り組んでいる。

2. 農業生産面における特徴

(1) 「おでかけ台所」は心も届けます

おかみさん市の活動の中心である「十和のおでかけ台所」は、常設の売り場を持たずに、高知市内及び周辺のスーパー9店舗でのインショップ販売とデリカセンターへの納入という形で行われている。インショップでの販売は、1～2日おきに店を巡回する形で実施しており、会員が交替で出向いて対面販売を行っている。

十和村は林野率が90%と平地が極めて少ないところであり、産直用の殆どの野菜は傾斜のきつい段々畑で生産され、生産条件は良くないものの、集荷システムが確立されており、中心部から20kmも離れた農家でも出荷が可能となっている。

自ら販売の現場に立ち、顔の見える関係が構築され、消費者の声、反応、表情を受け取るうちに、『ものを届けるだけでなくこころも一緒に届ける』ことの大切さに気付き、消費者を裏切ることは出来ないという責任感や相手の健康を思いやる心が育まれた。そして、消費者に喜んでもらえる農業、安心して安全な農産物を作り届ける農業に会員が一丸となって取り組んだことで、作る楽しさに売る楽しさが加わり、十和の女性たちは、自分たちの活動に大きな自信や誇りを感じている。



写真3 傾斜のきつい段々畑で野菜を栽培

また、スーパーでは天ぷらやかき揚げの実演販売や餅つきも行い、消費者に喜ばれている。特に、年末の餅つきは非常に好評で、つけばつくだけ売れるといった状況だが、重労働であり、おかみさんたちだけではとても手が回らないことから、去年は十和村の青年団がつき手として延べ32人が応援に駆けつけた。

こうした、「こころ」を届ける積み重ねが、十和村の農産物に対する信頼を高めるとともに、消費者との距離も縮め、ファンの増加に繋がっている。

(2) ケーブルテレビを活用した情報の共有

十和村では公営のケーブルテレビが開局（加入率は99%）されており、おかみさん市の活動が随時映像で紹介されている。また、文字放送でおでかけ台所や十和の台所に関する情

報が常時放映されている。例えば、生産者向けには、出荷して欲しい農産物情報やおでかけ台所の予定及び実演販売等のイベント情報、さらに、生産者が値段を決めやすいように野菜の市況状況も提供されている。また、消費者向けには、十和の台所への入荷情報が提供されている。

ケーブルテレビにより、同じ情報を同時に全ての会員が共有出来ることがおかみさん市の活動を円滑に進める上で大きな力となっている。

(3) 消費者の健康を思うところから ISO の認証取得に

おかみさん市では、平成 14 年から販売する全ての野菜に、おかみさん市独自の「正直工コ農産物表示」を付し、品名、生産年月日、生産地、生産者名、化学合成農薬の使用回数、化学合成肥料使用の有無を表示しており、消費者から大きな信頼を得ている。

そして、十和のおでかけ台所での対面販売から「消費者の健康を思いやるころ」、「消費者の安全・安心、そしてお互いの健康を保証し合うころ」がより一層育まれ、生産に携わる会員全てが ISO14001 の認証を取得した。

もちろん、全員が認証を受けるまでには何度も勉強会や講習会を開き、化学肥料や農薬を減らす為の栽培技術、農家の畑や資材置き場における具体的な整理整頓方法などの習得、指導者と農家が一体となった地道な努力があった。

3 . 生活・環境整備面における特徴

(1) 地域の資源、生活を見直す（都市消費者との交流に向けて）

おかみさん市による都市住民との交流を核とした地域おこしの取組は、おでかけ台所を通じておかみさんたちに醸成された「もっと十和を知って欲しい、是非十和に招いてもてなしあげたい」との気持ちが出発点になっている。

まず、自分たちが十和の持つ地域資源を見直すことから始め、他の地域には無い、豊かな食文化やそれに不可欠な地域の食材、そして集落ごとに伝統として伝えられていた郷土料理を活かすことが「自分たちが出来る最高のもてなし」だと気付いた。

お互いの集落に伝えられた郷土料理を披露しあい、自分たちが本当の味をだせるのか、消費者にどういう形で提供すれば喜んでもらえるのか、村内の非農家も含めて多くの人達を交えて試食会を重ね、味つけの濃淡、量、盛りつけ、食器、彩り、季節感、値頃感といった検討を重ね、ついに平成 16 年秋におもてなしメニューが完成した。

(2) とにかく都市住民を招いてみよう

平成 16 年 9 月に最初の交流会「十和であいましょう」は、おもてなしのメニューが本当に受け入れられるかを確認するとともに、地元住民の参画をどう進めるかを模索する意味も含めて 1 泊 2 日の日程で農村体験交流として実施された。

親子連れの参加希望が多かったことから、蒔蒔作りの体験や都会と田舎の子供たちが一緒になって、田舎遊びやハイキングなどを楽しんだ。また、野菜づくりの現場を理解してもら

うため、生産者の畑や資材置き場を見て回ったりと盛りだくさんの内容で開催された。この「十和であいましょう」の成功は、おかみさんたちに大きな自信を植え付けるとともに、定期的な都市住民との交流会の開催を確かなものにした。

(3) 十和のおもてなしツアー（開幕）

こうして、「食」を核とした都市住民との交流「十和のおもてなしツアー」が定期的実施されるようになった。このツアーは、「四万十川の四季の恵みのおしな書き」と銘打った郷土料理の提供をメインに、四万十川の清流など十和村の持つ自然や農業体験を組み合わせる形で行われている。

また、地域のお年寄りや子供たちに手伝ってもらい集落毎に持ち回りで開催することで、世代を越えた取組により集落の活性化も図ろうという狙いもある。

「春のおもてなしツアー」は茶摘み体験とおもてなし料理を組み合わせで開催された。

また、「初夏のおもてなしツアー」は四国アイランドリーグの高知ファイティングドッグスの選手を招いて開催された。田植えの体験や十和村の小学生を対象に野球教室も行われ、子供たちに大きな夢もプレゼントされている。

ちなみに、おかみさん市は、この四国独立リーグを応援する「一俵入魂百勝の会」をサポートしており、この会のシンボルとして使われている米俵は、おかみさん市の会員が50年振りに編んだものが使われている。



写真4 おもてなしツアーの食事風景

(4) 学校給食への食材提供から世代間交流へ

おかみさん市では、現在、村内の2つの中学校と3つの小学校に食材を提供している。この食材提供をきっかけに、おかみさんたちが郷土料理を子供たちと一緒に作り食べるという会も催されている。地域で採れる食材を使い、昔ながらの調理方法で手間を掛け愛情を込めた料理を子供たちと一緒に作りながら、子供たちに昔の話が沢山語られた。子供たちは普段の授業以上に熱心に耳を傾け、昔の暮らし、地域の歴史・文化について知識を得ることが出来た。学校給食への食材提供が縁で地域の中に世代を越えた交流が生まれている。



写真5 子供達との食事会

第3表 年間行事等一覧

| | 内 容 (交流事業、研修行事等) | (会議) |
|------|-----------------------------------|----------------|
| 1 月 | 十和の正月 おもてなしツアー開催 | 企画・代表者会議 |
| 2 月 | 先進地研修 | 企画・代表者会議 |
| 3 月 | 研修・学習会 | 企画・代表者会議 |
| 4 月 | 先進地研修 | 企画・代表者会議 |
| 5 月 | 十和の春 おもてなしツアー開催 「よってこい四万十」出店協力 | 総会 企画・代表者会議 |
| 6 月 | 十和の初夏 おもてなしツアー開催 研修・学習会 | 企画・代表者会議 |
| 7 月 | 十和の夏 おもてなしツアー開催 | 企画・代表者会議 |
| 8 月 | [夏祭り]出店協力 研修・学習会 | 企画・代表者会議 |
| 9 月 | 十和の秋 おもてなしツアー開催 | 企画・代表者会議 |
| 10 月 | 十和の晩秋 おもてなしツアー開催 | 企画・代表者会議 |
| 11 月 | 「ふるさとまつり(産業祭)」出店協力 | 企画・代表者会議 |
| 12 月 | 「土佐の冬祭(神響祭)」出展 | 企画・代表者会議 |